

見る側の視点にたった分かりやすいHPが お客様の信頼獲得への寄び水となる

酒井文人税理士事務所（静岡県静岡市）

左ページの写真をご覧いただきたい。この項で紹介する酒井文人税理士事務所のホームページだ。このホームページについて本稿を進めることになるのだが、このHPの優れている点は「見やすさ」「読みやすさ」にある。実際にインターネットでこのページを見ていただければ実感していただけるだろう。酒井税理士はこのHPを作る際に何にこだわったのか――。

酒井文人税理士事務所のホームページはシンプルだ。使われている色はヘッダーの部分の緑色を含めて赤と青の3色のみ。あとは文字色として黒が使われているだけだ。

写真や図版に加えてカラフルな彩りで飾られているホームページが多いなか、逆にこのシンプルさが印象に残るかもしれない。「はじめての方へ」のページは次の文章で始まる。

「このサイトに来られた方は、税理士に興味がある方、税理士を替えようと思われている方だと思います。」

このページを見ている人の立場で考えると、この税理士のことを「身近」に感じるのはずだ。というのも69

ページ写真波線部分が、書き手（税理士自身）を客観視しているからだ。

「この原稿を書くのにはずいぶん苦労しました。でも、前身になるホームページからの試行錯誤の結果、今のホームページがあるのだと思います」と笑いながら話す酒井文人税理士。

酒井氏が独立開業したのは04年9月のこと。当時、立ち上げた事務所のホームページは、HP制作ソフトを使って自分で作ったという。

苦労して作ったホームページだったが、反響はなかったという。その後、ムーバブルタイプ（カスタマイズ機能のあるHP）に移行した際にもはじめは自分で作った。その後、初めてデザイナーに依頼して作ったのが現在のホームページだ。

「デザイナーにお願したのは枠組みを作ってもらうこと。そして、フラッシュは使わないでくれということでした

た。税理士のホームページにフラッシュは必要ないと思っています。税理士のホームページに来る人は情報を求めて来るのが100%。ですから、私のホームページの条件は「読みやすい。見やすい。軽い」の3つです。読みやすさ、見やすさにはずいぶんこだわりました。当時はいろいろな本、雑誌を買い漁っていかしたら読みやすくできるのが研究しました。いろいろなWEBサイトも見ました。そして文字の大きさ、フォント、字切り、行間の開き具合まで、ディスプレイを見ながら決めました」

書籍の装丁デザイナーは、表紙、カバーのデザインを作るだけではなく、本文の活字の書体、大きさ、1行の文字数、行間の幅から紙の指定まで担当する。酒井氏のホームページでは、この装丁デザイナーの役割を自身が担当したことになる。

酒井氏のこだわりはこれにとしま



酒井文人税理士

「初めてのホームページは1週間かかって5ページ。泣きそうになりながら作りました」